

## 脳神経 CI 学会、Stroke 2018 参加報告

札幌医科大学附属病院 平野 透

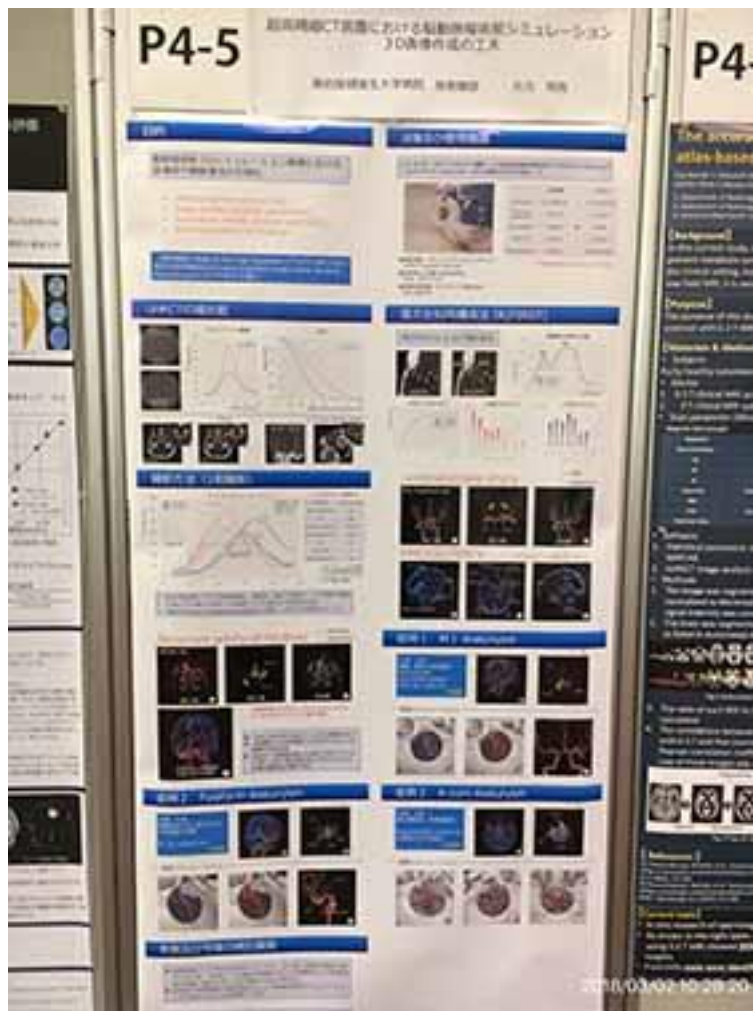
3 月に新潟で開催した脳神経 CI 学会と福岡で開催した Stroke2018 に参加してきましたので報告します。脳神経 CI 学会は脳神経領域における画像に関する学会で、この分野ではこの学会と神経放射線学会があり CI 学会が脳外科医の先生達が多く参加し、神経放射線学会は放射線診断医で脳神経領域を専門にしている先生達がざっくり言うと多く参加する学会です。私は基本の脳外科医がどのような画像を求めているのか？またどのような研究に興味があるのかを知りたく CI 学会に 10 年程前より参加しています。この学会では診療放射線技師の参加も比較的多く、数年前には技師が 1 セッションの殆どを占めていたこともあります。

ここ数年、この学会のトピックスに高精度手術シミュレーションのための画像処理があり、多くの施設において CT,MRI や DSA を用いた融合画像の有用性を報告していました。また手術シミュレーション画像作成のための教育講演では今までの手術シミュレーション画像に臓器の変形やクリッピング手技等 virtual reality 技術を導入した画像や deep learning を用いた画像解析なども報告され、現状の画像に満足することなく新たな画像処理を進める必要性を感じました。今回、この学会には Aquilion Precision を用いた微細脳血管描出に関する診療放射線技師によるポスター演題が 2 題あり、FIRST を用いることでの更なる血管描出の向上などの報告がありました。脳血管では 1mm 以下の血管描出も求められるため Precision そして FIRST 併用は脳神経領域においても有用と思われました。

今回私は Computational Fluid Dynamics(CFD)の撮影条件の標準化のためのファントムを開発し、その有用性に関して報告してきました。CFD の解析結果の正当性には標準化されたデータでの解析が重要で、そのためにはファントムでの検証が必要であり我々診療放射線技師の役割と思っています。



CI学会は新潟で2日間開催されました



Aquilion Precision を使用した研究報告(診療放射線技師の発表)

また3月15日(木)～3月18日(日)に開催した Stroke 2018 に参加してきました。この学会は昨年報告したように日本脳卒中学会学術集会、日本総卒中の外科学会学術集会、スパズム・シンポジウムの3学会の合同開催であり JRC(Japan Radiology Congress)と同じ形式の学会です。昨年は参加だけでしたが、今年は発表させて頂きました。今回のこの学会のテーマは「識る・診る・救う脳卒中～未来地図を作ろう～」であり、現在の脳卒中治療を検証しつつ、将来への医療のあり方を考える学会でした。

Stroke の参加者は脳外科医や神経内科医などの医師が大半ですが、脳卒中に関連した診療科の看護師の方も多く参加されていました。逆に診療放射線技師はおそらく総参加者の1%以下であったと思います、まだまだ循環器関連の学会等に比べると我々の職種の参加者が少ない感じです。

ちなみに看護師さんも多く参加しているので、CI学会とは違い会場内は華やかな雰囲気でもありました。

学会では各疾患での治療法に関する報告や新たなデバイスによる治療成績、更にエキスパートによる手術方法の解説(ビデオセッション)など様々なプログラムがあり、昨年同様ほんの僅かしか聴講することは出来ませんでした。若手医師にはエキスパートによる手術方法の解説に関心が高かったですが、普段、脳外科手術を見ることが出来ない診療放射線技師にとっても、手術手技の理解や解剖の勉強になると思いました。

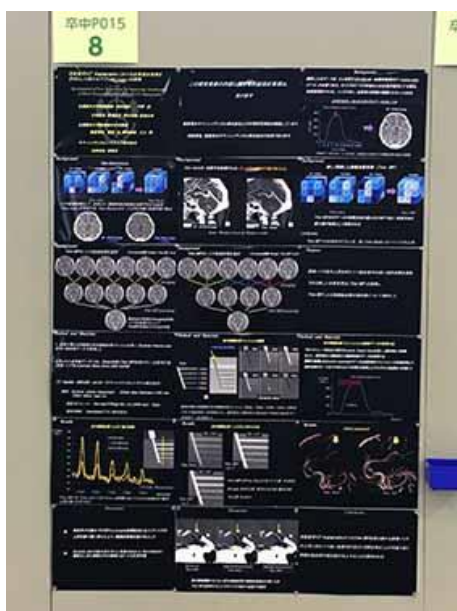
また急性期主幹動脈閉塞に対する機械的血栓回収療法の有用性が2015年に報告され、国内でも血管内治療においてメディカルスタッフも含めた治療戦略に関する今回の大きなテーマでありました。主幹動脈閉塞患者さんの予後に影響するのに発症から再開通までの時間が関係しており、その中で画像診断の時間も大きく影響していることから、我々診療放射線技師が如何に早く精度高い画像を提供する体制を作るかが重要であると改めて Stroke に参加して感じました。

当院においても画像診断から治療までの時間を短くする検討を今始めている状況です。学会に行くことで治療と画像診断との重要性を

改めて感じる場合があります。臨床系の学会にも参加してみるのも良いと思います。臨床系の学会は敷居が高いという方もいますが、画像解析に関する知識は我々の方がレベル高いと思っています。またCI学会などは発表者以外に勉強に来ている診療放射線技師の方も多いので、気楽に参加できると思います。来年のCI学会は東京、Strokeが横浜と地理的にも参加しやすいと思います。私は来年も行きますので、興味のある方、参加しませんか？



学会規模は技術学会の2倍以上でしょうか？来年は横浜開催です



今回はAquilion ONEを使用したTime MIPの有用性について報告しました